



# 学校だより

令和8年6月30日  
横浜市立仏向小学校

7月号

## 将来に繋がる学び「特別活動」

教務主任 久木 隆文

誰もが人生の中で通る小学校時代。忘れてしまったことばかりですが、今でもはっきりと覚えていることはたくさんあります。“5年生の林間合宿で、イワナをさばくことができずに半泣きになったこと。クラブ活動のドッジボールクラブで、ドッジボールが強い子に「うまいね」と言われて嬉しかったこと。飼育委員会で当時飼っていたウサギが脱走して必死になって探したこと。学級会で自分の意見に決定して嬉しかったこと。”

ふり返ってみると、国語や算数等での思い出もありますが、机上の学習ではない「特別活動」での思い出が多かったことに気がきました。

特別活動をなぜ学校で学ぶのでしょうか。そもそも学校とは、人と人が関わり合う一つの社会です。学校はまさに社会の縮図であり、児童にとって一番身近な社会です。そして、学校生活そのものを教育の対象としているのが「特別活動」なのです。

特別活動は、大きく分けると4つの領域に分けられます。



### ① 「学級活動」

学級生活の充実と向上に向け、他者と協働しながらよりよい学級や学校生活をつくる。  
(クラスでのお楽しみ会や係活動など)

### ② 「児童会活動」

全児童で組織し、自発的・自治的に活動することを通して学校生活を楽しく豊かにする。  
(委員会活動やたかの子班活動、1年生を迎える会など)

### ③ 「クラブ活動」

異なる学年の友達と趣味を同じくし、個性を伸ばし生活を豊かにする。  
(4年生～6年生の各クラブ活動)

### ④ 「学校行事」

地域や自然との関わりや、多様な文化や人との触れ合いを通して、学校の文化をつくる。  
(たかの子オリンピックや修学旅行など)

様々な活動や行事を通して自分の成長を実感したり、仲間と支え合いながらよりよい集団を目指したりする経験は、将来、様々な集団や社会の中でどう生きていくかにつながります。社会に繋がる活動をするからこそ、大人になっても忘れられない思い出として刻まれやすいのではないのでしょうか。

本校では、この特別活動を重点に置いて研究を進めて3年目になります。今年度は、自分でめあてを決めて実践するという活動に力を入れています。子どもたちの思い出に残り、さらに将来に繋がる力を身に付けていけるように、今後も子どもたちの学びと育ちを支えていきます。これからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。